

2

2 コロンビア大学での講演



デンタル小町が通る

七沢久子②

山梨県歯科衛生専門学校校長



昨年の10月31日から4日間、ニューヨークのコロンビア大学で開かれた「国際鍼灸治療学会」で、講演する機会を与えられました。

コロンビア大学は、オバマ大統領の卒業された大学で、

ヨーロッパの古城を思わせる図書館が印象的でした。

広大なキャンパスの色づき始めた木々の間にはロダンの考える人の像やヘンリームーアのオブジェが点在し、さすがに伝統ある大学だと実感させられました。

コロンビア大学での講演

講演の会場は、展望の良い15階で、私に与えられた講演時間は30分。テーマは「副交感神経優位の治療」についてでした。

非常に国際的な学会で、アメリカを始め、イタリヤ、トルコ、ブラジルなどから医療関係者が集まり、会場は満席で

熱気に溢れていました。

講演はすべて英語。日本で用意してきた原稿を機内でも繰り返し練習してきたとは言え、分かっていただけるか、胸がドキドキしました。でも、パワーポイントを使いながらの講演は思いのほか好評で、終

了後、たくさん質問をいただきました。

特に「爪もみ療法」には非常に多くの方が関心を寄せられ、「爪もみの強さはどのくらいですか」、「回数は何回くらいですか」、「両方の指をした方がいいのかしら」など、質問攻めにありました。

私は、お一人おひとりの手をとって、力の加減や挟む場所などをお教えしました。

先生方は、私の周りを囲み、私のお教えする一つひとつに興味を持ち、うなずいたりメモをとったりしながら大変熱心に聞いてくださいました。手の温もりの中に、国や言葉の壁を越えた深いつながりを感じ、胸が熱くなりました。

ニューヨークでの10日間は、人の温もりや優しさを実感できた素晴らしい日々でした。

医療活動を通して、周りの方々が笑顔になれるお手伝いをする。それが私の願いです。